

# 平成28年度 第1回府中市保健計画推進協議会会議録

日 時：平成28年7月1日（金）  
午後6時45分～8時30分  
場 所：府中市保健センター  
健康教育室

■出席者 委員：赤須 文彰（医療・府中市医師会長）

飯島 智広（行政・多摩府中保健所 保健対策課長）  
藤原 佳典（学識経験者・  
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所）  
森本 幸子（公募委員・市民）  
渡辺 信 （医療・府中市歯科医師会）

事務局：川田福祉保健部長  
三ヶ尻計画推進担当理事  
横道健康推進課長  
福田健康推進課長補佐  
福嶋成人保健係長  
神田保健師（成人保健係）  
島村保健師（成人保健係）  
石堂保健師（成人保健係）  
渡邊歯科衛生士（成人保健係）  
加藤栄養士（成人保健係）

※協議会設置要綱大6条の2項により委員6名中5名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

■進行 福田課長補佐（事務局）

- ・開会宣言
- 1 部長挨拶（市長挨拶の代読）
- 2 委員委嘱
- 3 委員紹介
- ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

■これより議事進行は会長となる。※傍聴希望者なし

【会長】次第のとおり進めていく

#### 4 報告事項

(1) 平成27年度事業報告（健康応援ガイド・市民アンケート調査について）

【事務局】

健康応援ガイドについて、**資料3**に基づいて説明する。

健康推進課が実施する保健事業全般を総合的にとりまとめた情報誌として、「平成28年度健康応援ガイド」を作成し、市内全戸に配布した。これは、今年度の新規事業として予算化したもので、保健計画の基本方針1「健康意識を高める」取組の一環として実施したものである。

これまで、検診や予防接種、講演会などの教育事業などの募集については、市報や窓口配布のチラシなどを中心に周知してきたが、市民全体に情報が行きわたるのは難しく、特にがん検診は申込期間が限られるため、情報を得たときには申し込み期間が終了しているということもあった。

これらのことから、本ガイドの作成と同時に、がん検診の申込み方法と受付期間の延長について大幅に見直しをした。

まず申込み方法について：2～3ヶ月に一度、主に市報に掲載する記事に基づき申し込みだったものを、今年度からは、ガイドに年間の検診日程を全て掲載し、第2希望までは希望日を記入して申し込めるように変更した。また、受付期間は、受診希望日の2ヶ月前までであればいつでも申し込めるとしたため、年間を通じて受診スケジュールをたてながら申し込むことができるようになった。また、これまで検診につき1人1枚の往復はがきで受付してきたが、郵便はがきで受け付ける方法に、また、複数のがんを一枚のハガキで申し込めるように変更した。申込用紙は健康応援ガイドにはさみ込んで配布したものを活用してもらい、紛失した場合は文化センターや市役所本庁などで再配布を受けられるようにした。

受診費用として、胃大腸肺乳子宮の5大がんは1検診500円、それ以外のがん検診は1,000円必要になったが、5大がんの定員は27年度比10%増やし、受診率向上を目指す。

「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査について、**資料4**に基づいて説明する。

平成27年度中に実施したアンケートについて、現在、藤原先生が研究部長を務める東京都健康長寿医療センター社会参加と地域保健研究チームにおいて分析を進めていただいているが、別紙のとおり中間報告する。

有効票数は3,852で回収率は48.2%。70歳以上の回収率が高く、1番低い

は20～24歳の26.7%だった。全ての年齢を、主な保健事業の年齢区分である、39歳以下、40～64歳、65歳以上の3つに区分したところ、若年層は23.2%、中年層は43.3%、高齢者層は33.6%という結果となった。

今後は、設問ごとの分析に加え、市内に11箇所ある文化センターの圏域ごとの分析、クロス分析などをしていただいたうえで、今年度中に最終報告ができるように進めていく。

#### (1)平成27年度事業報告の質疑応答

【委員】健康応援ガイドの方から質問をお願いします。

【委員】市民目線からいうと、健康の面がまとまっていてすごく分かりやすくなった。『保存版』となっているとおり、家でも保存する所に保管した。とてもよくまとまっている。

【委員】がん検診の申込みは、昨年までは往復ハガキだったのか。

【事務局】昨年度までは往復ハガキで対応していた。対象者かどうか、定員に達しているかどうかを確認して「対象者です」「受診できません」というお知らせを往復ハガキの片方で返信し、その後に問診票などの受診に関する案内を送っていた。しかし、大半は対象者であり往復ハガキの片方のお知らせはあまり意味がないことが多かった。今年からハガキで受付をし、受けられない理由がある人は、その旨のハガキを送っている。それ以外の大半の方は直接受診に関する案内を送るといった簡易な形に変更している。

【委員】往復ハガキは普通の家庭にないので、ハガキにしたということはとても良いことだと思う。

【委員】「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査についてはどうか。

【委員】若年層の回収率が低いというのは、どこの地域で行っても同様の結果がでる。続報が出たら報告して頂く。

#### (2)自殺対策について

【事務局】資料5-1に基づいて説明する。

平成18年制定の自殺対策基本法の一部を改正する法律が、平成28年4月1日に施行された。政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が定められているほか、都道府県と市町村においても区域内における自殺対策計画を定めることが、基本法の第13条に明記された。府中市でも平成28年度中を目途に「府中市自殺対策計画(案)」を策定する予定。協議会においても、今後進捗をお伝えしたい。

なお「自殺対策基本法の一部を改正する法律の概要」は資料5-1裏面となる。

続いて、資料5-2に基づいて説明する。

府中市の自殺の現状について数値としてまとめたものである。もう1枚のA4横の資料は府中市の自殺対策をまとめたものとなる。平成27年度は、一次予防、二次予防合わせて11事業実施した。新規事業はありませんが、①の自殺に関する講演会は、主催1回、後援2回と事業規模を拡大して実施した。また、⑩の自殺対策関係者連絡会は平成26年度に

始まり、27年度には3回開催しました。その連絡会の構成員（17課・25係）の協力により、「府中市自殺対策マニュアル」を作成することができた。

お手元の参考資料2が完成したマニュアルとなる。今後このマニュアルを活用し、個別相談や庁内の連携の充実を図れたらと考えている。

現在、国や都からは若年層支援や未遂者支援の充実を言われているところであるが、府中市では28年度新たに、⑫の自殺対策関係者連絡会分科会を立ち上げる。内容としては、新たに自殺リスクのある事例や過去の自殺未遂経験者についても支援体制の見直しや再検討を行う予定。関係機関同士の連携を深め、職員の相談スキルの向上により、1人でも自殺で亡くなる方が減ることを目指している。

府中市は近隣の市町村の中でも、自殺対策への取組を積極的に行っていると東京都より評価を得て、圏域6市や東京都の自殺対策担当者連絡会等で取組の紹介や事例発表も行っていることも、付け加えて報告する。

**【委員】** 資料⑬のゲートキーパー研修については対象が教職員向けということで、若年層対策のひとつという理解でよいか。

**【事務局】** ゲートキーパーにとどまらず、子どもたちへかけてほしい言葉や思春期特有の危うさについて事例や数値を基に先生に講演して頂く予定。

**【委員】** どの地域でも教育委員会や教育現場と地域保健の現場では温度差がある。学校はどちらかといえばオープンにしたくないところが見受けられるが、府中市では自殺についての連絡は風通しがいいのか。

**【事務局】** H27年度、⑧の自殺未遂者既遂者聞き取り調査を行う中で、教育委員会からあがった事例がある。それを1つのきっかけとしてつながった。私たちとしては、若年層向けに研修会をずっとやりたいと思っていた中で、教育委員会に声をかけたら、是非やりたいと言って受け取って頂き、今年実現に至った。

**【委員】** 子どものメンタルヘルスについては、本人だけでなくスクールカウンセラーや保護者への啓発が大切になる。誰がゲートキーパーになるか分からないというところでは、広く啓発していくとよい。

**【事務局】** 今回は教職員だけではなくスクールカウンセラーや教育センターで相談業務をしている専門職や養護教諭の先生方に声をかける予定。メインは小中学校に声をかけている。講師として、国立精神神経医療センターの松本俊彦先生に来て頂く。薬物依存専門で、以前府中市でお願いした時もとても好評であった。

**【委員】** 自殺はとても悲しく胸が痛むできごとである。自殺したいと言う患者を精神科へ紹介したことがある。例えば市役所であれば、どこに相談へ行けばいいのか知りたい。

**【事務局】** 現在、健康推進課が全庁的な取組の中で自殺対策の取りまとめの課となっている。他の相談に来てよくよく話を聞くと自殺企図がある場合もある。まだ未受診の疾患がありそうだと判断した場合は話を聞く中で、その方が今一番困っていることを一緒に考えてい

き、必要な部署へ連絡をとっていく役割がある。例えば、先ほど先生がおっしゃった方が、もし今後自立支援医療が必要としていたら一緒に障害者福祉課につないでいくということもある。また、自殺やうつ病の原因として経済的なことも大きいと言われている。生活困窮者支援法に基づいて動いている部署があるので、そこへ繋ぎいずれ生活保護の受給や、それに至る前の家計の相談に繋ぐという役割も担っている。

【委員】対応が難しい問題だと思う。うつ病という病気であった場合は、見抜けない場合が多い。経済困窮や家庭内の問題や職場の問題等と、うつ病の区別をどう区別していくか。うつ病の場合は確実に医療につなげないと、話を聞いているだけでは良くなる。自分たちではそれがうつ病かどうかは判断できない。

【委員】保健所の自殺対策の広域のバックアップ体制はどうなっているのか。

【委員】自殺対策ということで、7月に計画している地域保健協議会で検討する予定。北多摩南部医療圏での自殺対策として検討していければと思う。

【委員】大体、どこの圏域でも抱えている課題は一緒か？

【委員】北多摩南部医療圏でいうと各市で多少の差はあるが、大部分の市では男性の方が自殺での死亡者数は多い傾向である。市によっては男女差が無い市もある。

【委員】ゲートキーパー研修への取り組みと、⑨の企業との連携というところで、企業からゲートキーパー研修に参加はあるのか。

【事務局】昨年度は、本保健計画の策定に協力いただいた企業に声をかけて、少ないが2社に参加していただいた。

【委員】自殺対策のコミュニティーベースで成功した例として秋田県モデルが上げられる。健康に関する部署だけでなく、中年や働き盛りの方の経済苦や負債、借金が理由の場合もあり、弁護士などに入ってもらい根源を絶っていくということを聞いた事がある。府中市としてはそういった法律に関する部署との連携、ネットワークはどうなっているのか。

【事務局】現状は、健康推進課が直接弁護士と連携をとることはないが、生活困窮の部署が負債や家計の相談を受け、弁護士につなげていくことや、市役所の法律相談につなげることはある。

【委員】生活困窮につなげれば、慢性的に困窮している訳ではなく問題があり困窮になっている人への対応も可能になるということか。

【委員】⑦の自殺未遂者聞き取り調査で何か傾向はあったか。

【事務局】医療機関と消防署に実施したものについては、傾向までつかむのは難しかった。⑧の庁内聞き取り調査については、H25～27年度 庁内で発生した自殺未遂・既遂者の背景や原因状況などの聞き取り調査を行っている。原因についても未遂の方は、複数回の未遂歴があったり、家族問題や健康問題、経済問題の順に自殺・未遂に至った理由として多かった。平均すると、要因が2.2個あった。その理由だけを解決すればいいという問題ではないが、関係部署で連携し、そういった要因を取り除くことが必要ということで、今年度より⑩番にあるように、分科会を立ち上げた経過がある。

【委員】 うつとの関連性はみられたか。

【事務局】 病名については一番多かったのが、うつ病であった。続いて統合失調症、境界性人格障害やアルコール依存症との関連もみられた。

【委員】 うつ病とアルコール依存症との関連性はよく言われている。その関連性はみうけられたか。

【事務局】 そこまでの分析はできていない。しかし、関連の可能性があるのではないかという方はいた。

【委員】 精神科医との連携はあるのか。

【事務局】 事例を通して一人での受診が困難な方等に対しては、同行受診することがある。その際に病状の確認をすることはある。また、ケース会議として、その方に関わる支援者が集まって支援の方向性について検討して、その場で医師の意見をもらうことがある。

【委員】 自殺対策を行う上で精神科医の協力がなければ進まないと思われるので、必要であれば医師会として協力的な医師を紹介することも可能であるので、声をかけてほしい。

## 5 審議事項

(1) 平成28年度元気いっぱいサポート事業について (案)

【事務局】 **資料6-1**に基づいて説明する。

平成27年度の事業計画については、昨年度初めの協議会の場で協議いただき、その計画に基づいて実施したものが2の実績となる。各欄に①から順に番号がふってあるのは、27年度計画の同じ枠内に付番されたものに対応している。なお、未着手の計画については説明を割愛する。

まず、ソフトパワーの活用に関する、既存事業の活用としては、がん検診にモニター制度を導入する計画に対して、アンケートを実施してモニター協力の意思を3000人強からいただくことができたので、実現に向けて今年度検討することになっている。

②の福祉まつり等イベントにおいて X スキャン体験コーナー設置の計画に対しては、X スキャンのみではなく、4種類の測定ができる大測定会を2回開催し、合計506人の参加者があった。

④⑤の健康教育事業・リフレッシュセミナー事業については、これまでと異なり、各講座の参加者同士が交流できる時間帯を設定し、日頃の健康づくりの取組について情報交換したりして、別の講座と一緒に参加する人が出るなど、つながりづくりに貢献できてきている。

新たな取組の①の新しくパパママになる人たちへのメッセージ発信については、はじめてのパパママ教室開催日に合わせて X スキャンの測定会を開催し、新しくパパになる人の参加を促した。

②のイベント会場で自らの健康づくりの取組を紹介することについては、リフレッシュ

セミナーで参加者の健康づくりの工夫等について参加者同士が情報交換できる機会を設けた。

次に、情報提供の取組の新たな取組については、①サポート事業の周知コーナーの設置について、専用ではないが、市の取り組みを周知する掲示板を新設して広報に努めている。

③健康手帳や健康情報誌の改善については、健康手帳の各検診の結果記入欄の拡大、及び健康情報誌は健康応援ガイドに健診受診スケジュールの記入欄を設置した。

⑤の商工会議所の情報発信ツールを共有することについては、会議所が発信する会議所ニュースやメールマガジンに健康情報を掲載した。からだスキャン大測定会の記事掲載のときは、問合せ多数あり、新規参加者の掘り起こしにつながった。

#### 資料6-2 平成28年度元気いっぱいサポート（主な事業抜粋）計画（案）について

平成27年度の実績を基に、平成28年度の元気いっぱいサポート事業のうち、主な事業を抜粋したものを説明する。計画案のうち、特に新しい取組内容としては、新たな取組の「③ 団体登録されているサポーターの活動調査」、「⑤のウォーキングマップを活用した市民同士のつながりを醸成する企画」、「⑥ サポーターリーダー研修会」の開催がある。それぞれの内容は、このあと説明とする。

#### 資料7 H28元気いっぱいリーダーサポーター研修会（案）について

第2次健康ふちゅう21の推進のために、元気いっぱいサポーターの活躍が必須であるが、これまでサポーターに対する研修会を実施したことはなかった。特に、事業の企画運営に携わっていただくサポーターのみなさんには、あらかじめ市が期待することや、市の現状・課題などを知っていただいたうえで、共に作りあげていきたいと考えている。藤原会長にご協力いただき、ソーシャルキャピタルの醸成と安全安心のまちづくり、健康づくりとの関係性などについて知っていただいたり、市が取り組む健康づくりについて、看護・歯科・栄養の専門職から説明することを考えている。

#### 資料8 ウォーキングマップリニューアル記念「矢崎町から多摩川を歩いて健康に」について

ウォーキングマップをリニューアルしていることについては、27年度中に一度報告している所であるが、今年度完成する予定となる。7コースのうち、新たにコースを設置した総合体育館を中心としたコースにおいて、モデル事業として実施する予定。

ウォーキング大会は、既に本市他部署が実施しているものがあるため、健康推進課らしく健康づくりにより貢献できる取組にしたいと考えている。具体的には、安定したウォーキングが期待でき、消費カロリー量が多く、最近では糖尿病患者や高齢者が多く取り入れている、ポールウォーキング、もしくはノルディックウォーキングが体験できるイベントを検討している。これは、藤原会長からのご助言もあり、他自治体で実施している例を参考

に今後内容をつめていく予定。

**【委員】** 元気いっぱいサポート事業について、ご質問、ご意見をお願いします。

では、資料6-2既存事業の活用のところで、「①パパママ学級でメッセージを発信する先輩ママ役を、元気いっぱいサポーターに協力してもらおう仕組みづくり」というところについて、私は最近、研究でシニア世代の子育て支援のモデル事業に着手しており、少し上の世代の先輩ママさんがサポートするということは理想的な形だと思っている。ただその際に、昔の子育てと今の子育てとだいぶ違うということがあって、今のママさんからするとそこで元気いっぱいサポーターの世代の方との齟齬や、アレルギーを感じる人もいると思う。その辺で、今の子育てというものをサポーターに伝授される時に、事前に申し合わせなり、研修が必要と思う。そのあたりの工夫はあるか。

**【事務局】** 今のところ、具体的な計画はないが、確かに、時折、おばあちゃんが、「昔と今は違うからパパママ学級に参加させてほしい」という方がいる。今後、サポーターの中で、この分野に興味のある方が複数でてくる場合には何か検討する必要があると思う。

**【委員】** シニア世代まで行かなくても40代、50代の方でも、だいぶ子育てが変わってきていると聞くので、そのあたりのオンタイムの子育てを共有していただくことが大事だと思う。でも確かに、先輩役を元気いっぱいサポーターがやるというのは、全国的に不足しているファミリーサポートの導入のきっかけにもなると思うので、そういう意味では良い形でやっていただければと思う。最近では、おじいちゃんおばあちゃん世代の孫育ても結構流行っているようで、埼玉県では孫育て手帳というものを県がモデル的に配ったりしているようなので、ちょっと先輩ママの活用を工夫すると良いと思う。

資料7 H28元気いっぱいサポーターリーダー研修会（案）について、リーダーの研修は、非常に大事だと思うが、そこで3の内容のところで災害時の健康～栄養と口腔ケア～と出ているが、災害時の健康と、栄養と口腔ケアの繋がりがどうなのかな、ということと、いきなり災害時の健康を貴重な4時間の中ですべて出してきた意図を教えてください。

**【事務局】** 研修案を考えていた時期に、熊本の地震があったということも一つのきっかけとなっているが、元々この保健計画の中の、健康危機に備えるという部分が他と違い啓発や市の取り組みについて、市民に説明する機会がなかなか無いというのが現状であるので、文章だけ見るとあまり関係ないように見えるが、保健計画の中の位置づけとして、理解していただけるような物を考えていきたいと思っている。

**【委員】** 災害時の健康ということは大事だと思うので、例えば、サポーターリーダーに何か中心的に担ってもらおうという意味で研修に入れるのならいいのだが、もっと広く、市民全体に知識として、災害時の健康の危機管理を啓発したいのなら別の機会のほうがもっと広く知れ渡ると思う。サポーターリーダーにどの辺の部分を担当してほしいかとい



うところで、例えばもっと実際のリーダー的なことをお願いするのなら、健康診断や体力測定の様子や、基本的な栄養や運動等のところを勉強してもらうことも大事かと思う。この4時間の使い方をもう少し吟味したほうが良いと思う。一日かためて4時間やるのか、時期をあけて2時間ずつ2日に分けてやるのか等いろいろな例を調べて、効果的な方法を模索すれば良いと思う。

【事務局】 補足になるが、元気いっぱいサポーター自体を育てていくという取り組みと、サポーターの中でリーダー的な役割を担う市民の方を、ということで、今回、資料8にあるウォーキングマップのリニューアルについては、サポーターの中から何人かの市民の方が参加されて、その方々にもものすごく細やかな、具体的な意見をいただきながら、東京都の補助金を使いつつ、健康ですかマンという東京都のホームページにもキャラクターを載せて府中市ウォーキングマップがアップされる段取りになっている。市民の方にも達成感があり、職員にも気づきがあり、リーダーを育てることによって職員も育つのだなという思いは、主管課として持っている。ただ、リーダーとしてどのような方々になっていただきたいのかというところと、ご自分から「なりたい」という方との、その辺のせめぎあいや、難しさも現場の悩みとしてある。『健康』というすそ野が広い分、手あげしてくる方の思いと、市としてこの辺りを育てていきたいという思いがあるので、このような人を育て、それを地域づくりにつなげていくというところでは先生のアドバイスを聞きつつ、スキルを高めていきたいと思う。今後報告できた場でその辺も伝えていければと思う。

【委員】 確かに、なりたい方と、なっていたきたい方は必ずしも一致しない。役所の立場であなたなってくださいというところと問題があると思うので、出来るだけ研修やその他の活動の場の中で、住民同士でじっくりミーティングしてもらって、住民の方同士で選んでもらった方が、その後もスムーズになるのではないかと思う。このような研修会は節目、節目ですとしても、もう少し、リーダーやリーダー候補がまめに集まって企画をしたり、話し合う機会を増やしていくと、その中で自然にリーダーが生まれてくるのではないかと思う。できるだけ顔を合わせる機会を増やしていかれると良いと思う。

【委員】 私も、マップ作りに入っているが、入ったことはとても良いことだと思って参加させてもらっているが、『リーダーになる』というと、ん？と思う。人それぞれの適材適所があるので、難しいとしか言いようがない。

【委員】 資料8について、実施日時が、11月の平日午前中となっていて、対象者が在学・在勤者ということだが、学校が参加するようなことも想定しているのか。普通に学校に行ってらっしゃる方は、平日休みというわけにはなかなかいかないので、例えば近隣の学校として参加していただけるような形で働きかけるのかな、と思ひまして。

【事務局】 そこまでの検討は事務局の方でもできていなかった。先生から情報提供をいただいたのもあり、志木市のノルディックウォークを取り入れた形で実施するというので、

初回は、学校と連絡を取り合っ、という形までにはいかないと思う。

【委員】志木市は日曜日ではなかったか。

【事務局】大きい大会は日曜日です。

【委員】志木市や、普通の自治体でやるときは、平日は退職後の方を想定してお集めになっているので、誰をターゲットにするのかで時間帯を検討してはどうか。

【委員】在勤ですと、平日お休みの方もいるので、まあいらっしゃるのかなと思ったが、在学の方は、もしかしたら学校も参加してくださるような取り組みまでされているのかな、そうであればより素晴らしいな、と思い質問した。

【委員】その辺の日程等は、要検討ということですね。リニューアル記念のこのイベントは、サポーターリーダーは、ボランティアとして実際に活躍される機会はあるのか。

【事務局】実際、今回のウォーキングアップを作るのにご協力いただいた市民の方々と、先日最後の確認を含めてご意見をいただいた方に声かけはしたが、その中でどの位中心になってやっていただけるかは分からない。ただ、事業をやるごとに、何かやるならお手伝いしますよ、という方が少しずつ出てきている。昨年の大測定会では、実際に測定会の後集まる機会があった時には、「実は大測定会に行って、こんなことを思ったので、意見を言う場があれば参加しますよ」と言って下さる方もいて、そのような方はもう少しプッシュすれば企画運営にまわっていただける方の予備軍となると考えているので、この会からもそのような方が出ることを期待している。

【委員】それは、地道に掘り起こしていけば十分可能だと思う。他はいかがでしょうか。渡邊委員、全体を通していかがですか。

【委員】リーダーというのは、どなたがどうやって決め、認識するのか。参加者の中で皆さんがこの人がリーダーと思うのか、行政が主体となってこの人がリーダーとするのか。その辺に差があって、リーダーとはいったいどのような資格なのかな、と。

【委員】おっしゃる通りです。この研修を受ければリーダーですよ、というものもあり、いろいろだと思います。どのようなイメージで考えているか。

【事務局】資格的な、何を知っているからこれができるということではないと考えている。何かやろうという時に、「協力しますよ」と言って参加する+アルファ位の人ではなく、どんな人に声をかけて、どのようにやったらいいかなど積み上げのところから一緒に考えて下さる方をリーダーと認識している。イベントの内容によってはリーダーも変わってくると思う。

【委員】その辺は逆に、行政なり、主催者側の意識と、市民の方からすれば、時にはリーダーであったり、なかったりで混乱される方もいるかもしれない。そのあたりはどうでしょうか。研修や登録を明文化した方がいいのか、その時その時でいいのか。

【委員】得意分野がその人なりにあると思うので、イベントの内容によって、でいいのではないか。たとえば今回のウォーキングであれば、歩くのが大好きとか、その地域をよく知っている方がリーダーでよいと思う。

【委員】それはイベントごとに、第1回大会はあなたがリーダー、第2回は違う方、と

いうように、そこまでフレキシブルに考えているのか、それとも分野、分野でリーダーを変えるのか。確かに専門分野というのは大事だと思うが、混乱しないようにするのも大事なので、その辺をもう少し色々な方の意見を聞いて、リーダーたるものは何かということを決めていただきたい。

【委員】すでにリーダー的なことをやっている方はいらっしゃると思う。たとえば公園で体操をやっている方等、もともとリーダー的に活躍している方に声かけすると、より、サポートリーダーになっていただきやすいと思うので、その把握も必要だと思う。

【事務局】後程説明させていただくが、元気いっぱいサポーターには個人と団体の登録がある。個人登録の方には、今までも色々アプローチしていたが、団体登録の方にはあまりアプローチすることがなかったので、今年度は、個人と同様にアンケートをとることにしている。現在は、どのような方が、どのように活動しているかもわからない状態なので、アンケートを取ることで、リーダーになり得る要素も拾えるのではないかと期待している。

【委員】では、この後もアンケートの内容の議論が続くので、次（２）平成２８年度アンケートについて（案）に進めたいと思う。

#### （２）平成２８年度アンケート(案)について

【事務局】元気いっぱいサポーター（団体）の取組に関するアンケート調査（案）について、**資料9**に基づいて説明する。

元気いっぱいサポーターの団体に対し、初めてアンケートにてアプローチを行う。現在把握している登録団体は31団体となる。主に、団体内でのつながりや、活動状況について聞いている。団体独自に聞いている内容としては、**問3**では、地域とのつながりがある団体が、どれくらいいるかを確認したいと考えている。**問9**では、他の団体との協働の有無をきいている。地域のつながりがある団体から、健康情報発信が期待できると考えている。**問10**では、新規加入者について聞いていて、公開している団体が多ければ、元気いっぱいサポーターを通じて、団体の活動に参加したいという方が増えて、つながっていくことを期待している。**問12**では団体として、企画運営に参加できるかを聞いている。団体ならではの活動方法のヒントがあれば、府中市全体の健康づくりにつながられるのではないかと考えている。

元気いっぱいサポーター（個人）の取組に関するアンケート調査（案）について、**資料10**に基づいて説明する。

昨年のアンケートで、「元気いっぱいサポーターはどんな活動をしているの?」という意見が多数あったことから、アンケートと一緒に「元気いっぱいサポーター通信」という活動報告を同封し、現状を知っていただくようになっている。平成27年度の主な活動として「ウォーキングマップ作成」と「からだ★スキャン大測定会」の内容と、今年度、ウォーキング大会を行うことを予告している。

資料10の右側は、元気いっぱいサポーターの皆さんと協働して活動したいことと課題を示している。

1 元気いっぱいサポーターの軌跡では、第1次計画からの流れを記載している。2 サポーターの皆さんと活動したいことでは、①協働：サポーターと府中市と一緒に健康づくりを考え、活動したいこと、②地域に活動を広げる：サポーターが活動している健康づくりの内容を周りの人、地域の人に広げてくれることを期待していること、③健康づくりでつながる：サポーターが活動している健康づくりで知り合い、地域で健康づくりの推進の『わ』をつなげてほしいと考えていること 3 府中市の課題では、「サポーターリーダーの育成」として、今後サポーターの中で中心的に活動してくれるリーダーを育成していく予定。詳細は、平成28年度事業報告で説明したとおりとなる。他には、「まちぐるみ、地域ぐるみの健康づくりの仕組みをつくる」、「今後の健康づくりの方向性、具体的な取り組み」をサポーターリーダーとともに検討していきたいと考えている。

資料10の2枚目が、サポーターアンケートになっている。今回は、約1,050人に発送する予定。昨年と違う点は、【問4】サポーターとして、具体的に活動したいか、どのくらいの頻度で活動できるかを聞いている。【問5】では、登録時に活動したい分野を聞いている内容であるが、1次計画の時に登録している人や、登録してから時間が経過し、活動したい分野が変わった場合もあるので、再度聞いている。サポーターリーダーの発掘する場合、⑤健康情報を発信する、⑥健康づくりの事業の企画運営をする、を選んだ方に声をかけていく方向。【問6】では、具体的な活動内容を聞いている。また、④その他で、サポーターの方から提案があることを期待している。【問7】では、サポーターリーダーに関心がある方をキャッチし、直接勧誘できるような内容にしている。

【委員】資料9団体の取り組みに関するアンケートについて、問1の選択肢①団体の健康管理のための、意味は分かるが、団体は無生物なので、団体のメンバーとか団体内の人全体の健康管理等、表現を考慮した方が応えやすい。個人個人ではなく団体内のみなのというイメージだと思うので。

【委員】これは団体の代表の方に聞くのか。

【事務局】団体の代表の方に聞く予定。

【委員】ということは、自分が団体としてサポーターに入っていることを知らない人もいるということですね。

【委員】問5の選択肢だが、⑤わからないがあると、ここに〇がついてしまう。いずれ変化を見ることを考えると、あえて「分からない」は外して、選択肢は4つの方が変化はとらえやすいと思う。

【事務局】評価の時にはまたアンケートを取るので、変化が見れるようにしていきたいと思う。

【事務局】補足になるが、先ほど31団体にこのアンケートを送るとあったが、団体に対しては、この制度を設けた当初に協力を仰いで以降、特に目立ったアプローチをしてき

ておらず、細く長くという意味合いでは、途切れ途切れになりがちだった。団体としては、当初は説明して（サポーターに）入っていただいた経過があったとは思いますが、それ以降働きかけてこなかったのもので、このアンケートを取ることによって、これは何ですか等、団体の意向も含めた問合せになると思う。アンケートの返信があるか、ないかというところから、一つの評価になると考えている。

【委員】現状確認と、再啓発のようなものですね。

【委員】問10ですが、企業では難しいのではないかと。団体を企業と読み替えると、問10だけ難しいと思う。

【事務局】この設問はどちらかというと、体操や歌などの趣味的な活動をやっている団体を想定しているので、検討する。

【委員】問10のあなたはどの団体の、は、は削除。

個人のアンケートの問2①スポーツに関係した活動とあるが、例えば体操やウォーキングの様な個人でやる、スポーツではないが運動系の活動は、①に入れるべきか⑧食生活など生活習慣の改善のための活動に入れるべきか。数としては、個人で活動されている方が多いと思うが、どちらに入れると解釈すべきか。スポーツというと団体活動というイメージがでてくるし、⑧はどちらかというと個人でもできることなので。

【事務局】今後検討したいと思う。

【委員】問5の③定期的な健（検）診を受診するでは、ご本人が受診するという事だけで良いのか、健（検）診を啓発というかPRすることを期待しているのか。これだけで自分だけ受診すればいいようにとれる。

【事務局】自分で健（検）診を受診するという事もあるが、健（検）診の結果を活かして生活習慣の改善に取り組んでもらいたい。自分で取り組むのと、その取り組みを周りに伝えてもらえたらと思う。

【委員】周りの人にも健（検）診を受けに行きましょうと啓発することですね。だとするともう一言、啓発することを入れる必要があるのでは。

【委員】自分が健（検）診を受けることで、元気いっぱいサポーターとしてやったことになるということですね。

【事務局】はい、自身の健康づくりに取り組むということがひとつの要素で、それと、プラス、その取り組みを周りに伝えてもらいたいということが趣旨なので、まずは、あなたが受けてくださいというのが基本にある。

【委員】問5の質問については、答える立場になった方は混乱するかなという印象を受けた。①から⑥にそれぞれ書いてはあるが、「現状にあてはまるものすべて」とあるので、となりの矢印のところが、ここも現状やっているものに○を付けるのか、現状はやっていなくても左の方でやっているものに○を付けるのか。どちらで答えれば良いのか分かりにくい。答える方が混乱しなくてすむような設問の方が良いと思う。

【事務局】ありがとうございます。検討します。

【委員】問6-1③新規事業(未定)とあるが、これは、具体的には今のところは未定で、①と

②以外で何か新しい事業を立ち上げた時に興味があるか、ということですよ。④その他もあるので、〇がつけにくいのではないかと。

【事務局】①と②だけでは今行っているものに限局されてしまう。今後新たに事業をやりたいと思っているので、その時に新しい事業ならやりたいという方がいるかなと思って入れている。

【委員】問6でいきなり、「企画運営に興味がありますか」と聞いているので、聞かれている方はまず、企画運営って何？というような衝撃を受けると思う。その後の問6-1でこのような設問がついているので意図するところはわかると思うので、それであれば問6と問6-1と分けなくても良いと思う。例えば、今後の元気いっぱいサポーター事業について、以下の企画運営に興味がありますか。で、①、②、③とあって、あと、ない、分からない等という形であれば少し応えやすいと思う。

【事務局】ありがとうございます。

【委員】個人のアンケートは、個人の方の性別、年齢等の属性は聞く欄はないのか。

【事務局】個人の番号を振って送る予定です。

【委員】把握しているのですね。

【委員】問7で、サポーターリーダーについての説明はどこかにつける予定なのか。

【事務局】こちらが求めているサポーターリーダーとしての役割について触れたうえで、聞いていきたいと思う。

【委員】先ほどの、問5定期的な健（検）診を受診するというところですが、7月に毎年無料の健診を受けているが、自分のものさしで話すと、みんなが受けているものだと思っていた。今回特定健診の受診率がとても低いことを知り、すごく驚いた。家庭の主婦等は行かないのか。

【委員】府中市の医師会として把握しているのは、府中市の受診率は東京都でトップクラスである。なぜかというとなら7月から9月の3か月に集中して行うから。よその市はバースデー健診として、行っている場合が多いが、府中市は、インフルエンザの流行る10月、11月を外して、7月から9月の時期に集中して行っており、東京都で1位か2位を保っている。誇れるところであるが、それ自体が、低いということなので、一般はそんなものだという事。

【委員】仕事をしている人は当然会社で行うし、それが義務とは思っていないが、当然、みんな行っているものだと思っていたので、驚いた。

【委員】保険者ごとに健診をすることになっているので、特定健診は健康推進課が担当となるか。

【事務局】特定健診は、保険年金課で、事務的などところは全て委任を受けている。受診率がトップという認識はなかった。

【委員】東京23区と多摩地区で、トップ、たしか1位でした。ダントツに多い。

10年くらい前に5か月に渡って長く健診を行ったことがあるが、受診率は下がった。長い期間でやると逆に忘れてしまうのではないかと。

【委員】 審議事項は、以上でよいか。

【事務局】 今日いただいた意見を反映し、修正する。実際の送付は7月、8月を予定しているが、その前にまた相談させて顶きたい。

## 6 その他

(1) 平成28年度府中市保健計画スケジュールについて

参考資料 平成28年度府中市保健計画スケジュール

【事務局】 第2次健康ふちゅう21に基づく、平成28年度事業スケジュールについては、参考資料のとおり。状況により、時期や回数を変更する可能性があるかもしれないが、その際にご相談ご報告いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

また、本協議会の委員構成につきまして、今後さらに多面的な議論を進めていくために、様々な分野に携わる方の参加を求めていくことを考えておりますので、委員の追加があるかもしれませんが、またご報告いたしますのでご理解ください。